

トピック 一カット野菜の小売動向について

平成21～24年度の量販店等におけるカット野菜のPOS（販売時点情報管理）データから、近年需要の伸びが注目されているカット野菜の小売動向を探ってみた。

メーカー数及びアイテム数は、平成24年度に大きく増加している。一方、千人当たりの販売個数と販売金額は、年を追うごとに大きく増加している。

こうした中、主な品目の平均価格の推移を見ると、みずなどレタスは上昇傾向であるものの、全体的には価格がやや下がる傾向にある。

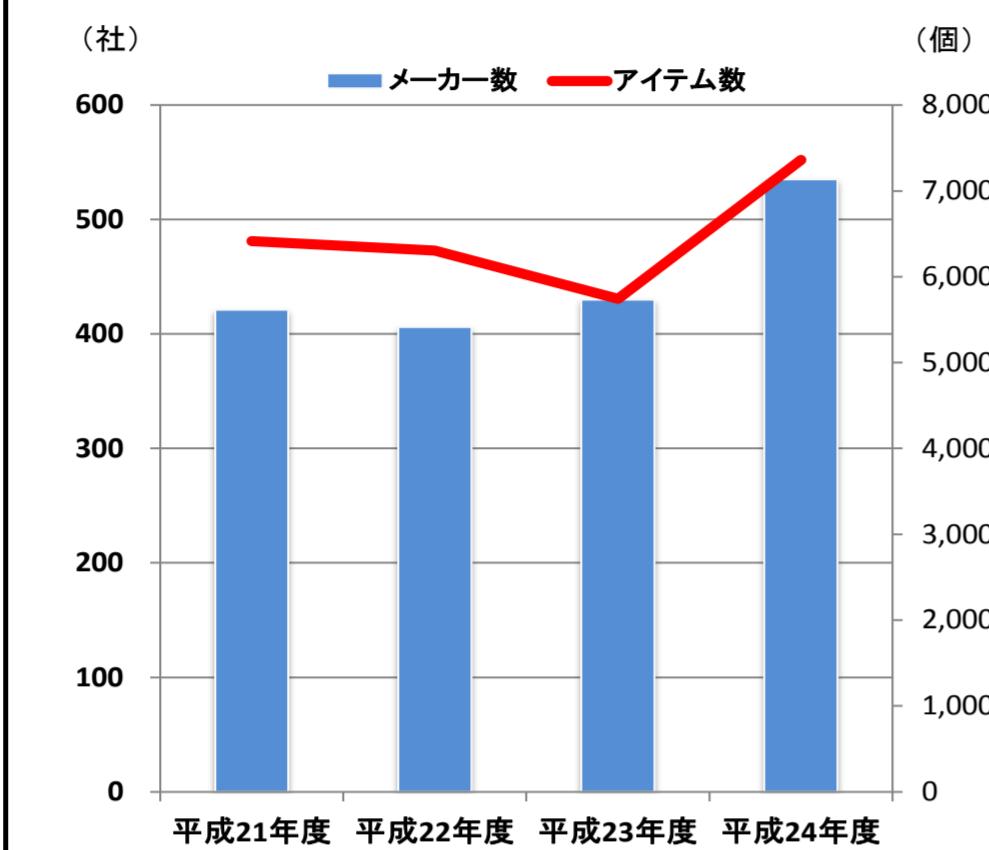
また、千人当たりの販売金額の品目別の比率を見ると、平成24年度では、ミックス野菜が一番高く、次いで、キャベツ、レタス、みずなどの順になっており、平成21年度と比較すると、ミックス野菜及びごぼうの比率が低くなり、キャベツ、レタス及びみずなどの比率が高くなっている。

カット野菜は、これまで生鮮野菜の価格が高い時に代替品として販売が伸びると言われていた。カット野菜の販売個数と生鮮野菜の卸売価格の推移を見ると、平成23年ぐらいまではそのことが当たる。

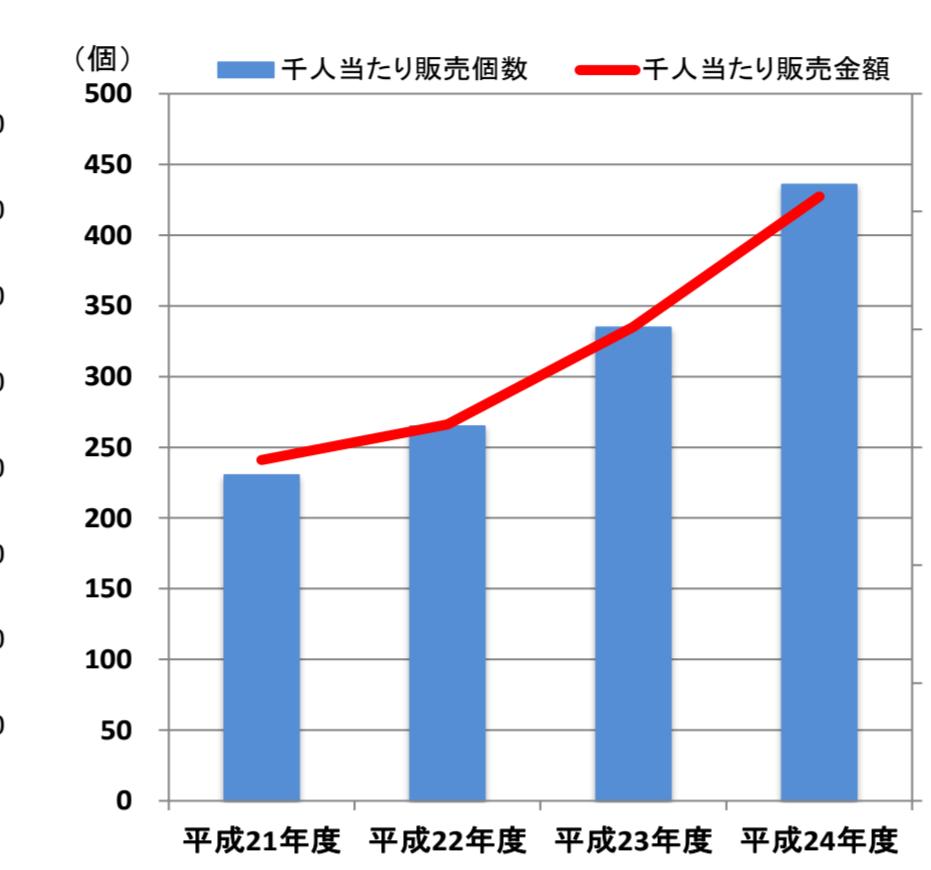
しかし、平成24年以降は、卸売価格の高騰にあわせてカット野菜の販売個数の水準が上がり、かつ、卸売価格が下落しても販売個数はそれ程減少していない。簡便化志向の中で使いきりのできるカット野菜の利便性を知り、カット野菜の利用が定着して、需要が拡大していると最近言われるようになつたが、そのことが十分に伺える推移となっている。

カット野菜の小売販売動向調査はこちらから。

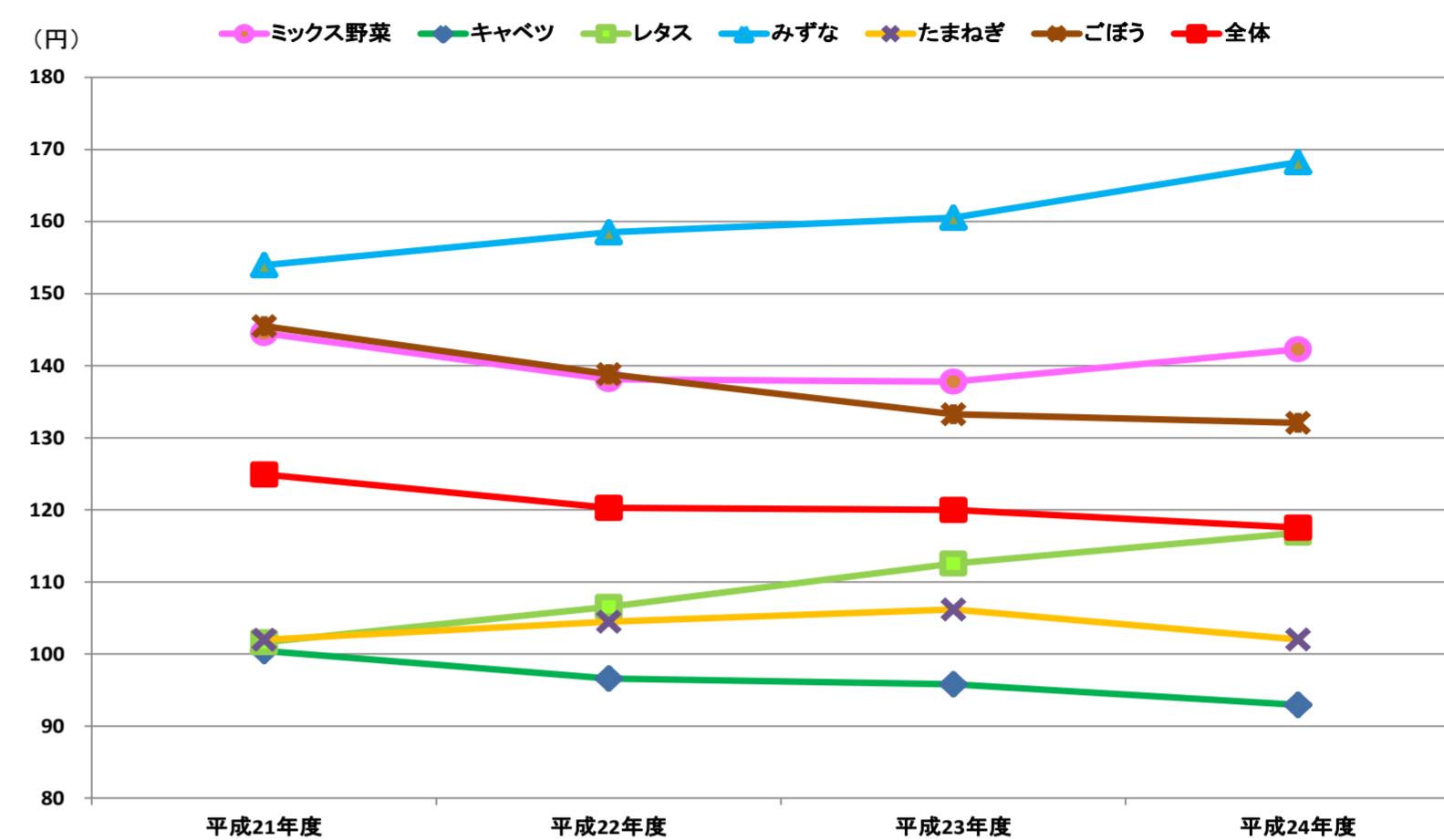
カット野菜のメーカー数とアイテム数の推移



カット野菜の千人当たりの販売個数と金額の推移

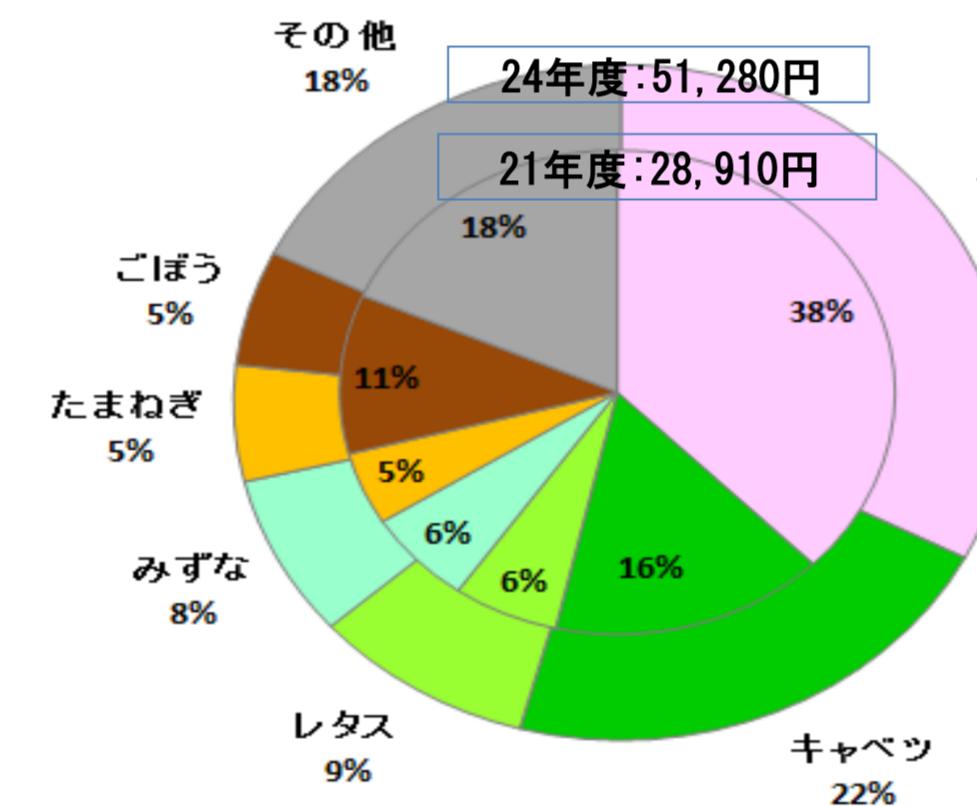


カット野菜の主な品目の平均価格の推移(平成21～24年度)



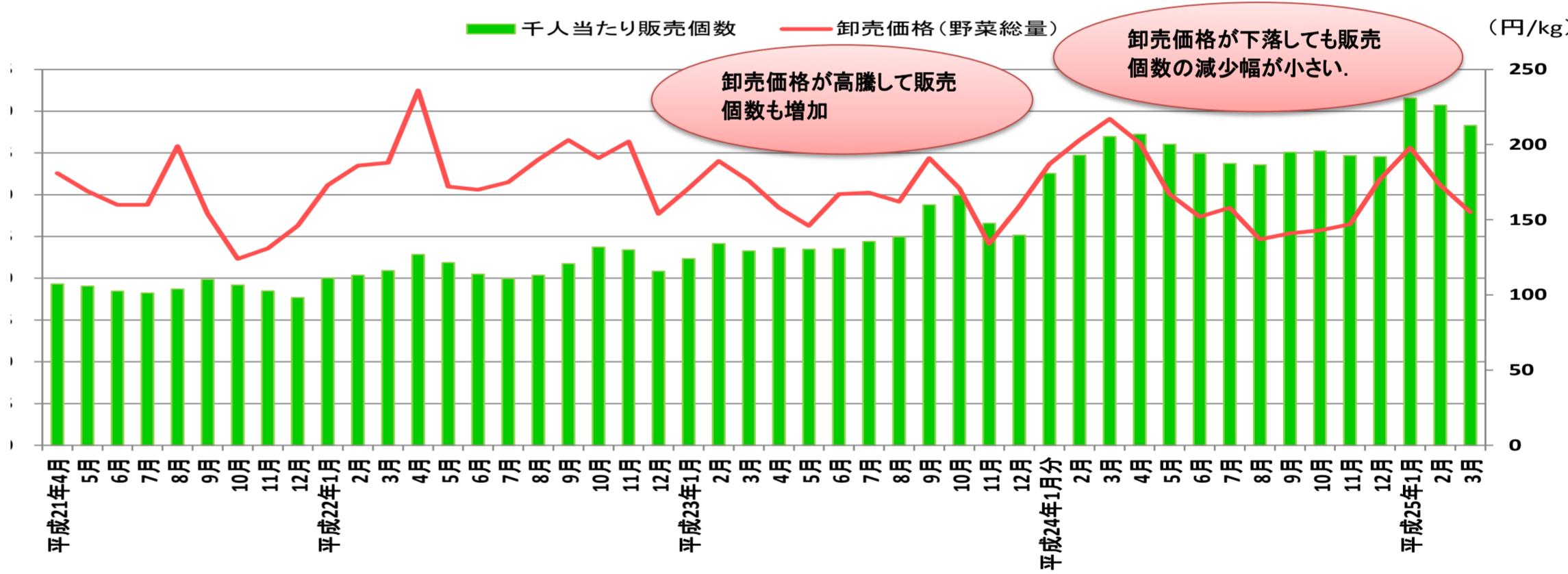
資料：農畜産業振興機構「カット野菜小売販売動向調査」

カット野菜の千人当たりの販売金額品の品目別の比率
(平成21年度と24年度の比較)



資料：農畜産業振興機構「カット野菜小売販売動向調査」

カット野菜の千人当たりの販売個数と生鮮野菜の価格の月別推移(平成21～24年度)



資料：農畜産業振興機構「カット野菜小売販売動向調査」、青果物情報センター

注：卸売価格は、東京都中央卸売市場の野菜総量の卸売価格。

- 注：1. カット野菜小売動向調査におけるカット野菜は、スーパー等の生鮮野菜の売り場や総菜売り場で販売されているカット野菜(きざみ野菜、ミックス野菜及び葉もの中心のサラダを含む。)と調理用カット野菜(鍋セット、野菜炒めセット及びつまものセット)である。ただし、2分の1カットや4分の1カット等単価の遅延等のためにカットした野菜を除く。
- 2. 収集POSデータは、日経POSデータであり、全国のスーパー・マーケット(約156チェーン、約683店舗)を対象としている。
- 3. 「サラダ」のカテゴリーに属するPOSデータと「その他農産」のカテゴリーに属するPOSデータを収集し、野菜中心のサラダと調理用野菜を抽出した。
- 4. 品目別データの抽出に当たっては、商品名の最初にくる品目名をキーワードとして、品目別に抽出し、品目別に分類できないものはミックス野菜としている。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。□

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はページのトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。